

新たな地方創生の実現に向けた 第3期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議

日時：令和7年12月22日（月）10:00～

会場：三朝町役場 第2会議室

【日 程】

1. 開 会
 2. 町長あいさつ
 3. 委員紹介(自己紹介)・・・【資料1】
 4. 議 題
 - (1) 第3期総合戦略概要説明
 - ・人口ビジョン・・・【資料2】
 - ・総合戦略・・・【資料3】
 - (2) 意見交換
 - (3) その他
 5. 閉 会
-

新たな地方創生の実現に向けた 第3期三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議委員名簿

所 属 等	職名等	氏名（敬称略）	分野	備考
三朝温泉観光協会	会長	知久馬 宏平	産業	
三朝温泉旅館協同組合	理事長	岩崎 元哉	産業	
三朝町商工会	会長	福田 茂樹	産業	
三朝町農業委員会	会長	山本 雅之	産業	
鳥取県中部森林組合	代表理事組合長	加藤 栄隆	産業	
倉吉公共職業安定所	所長	亀谷 剛宏	労働	
新日本海新聞社中部本社	記者	伊垢離 真奈	言論	
日本海ケーブルネットワーク倉吉放送センター	センター長	中嶋 信行	言論	
竹田地域協議会	会長	高見 昌利	地域	
三朝町教育委員会	地域コーディネーター	松浦 靖明	教育	
山陰合同銀行三朝出張所	支店長	尾崎 千佳	金融	
鳥取銀行倉吉中央支店	支店長	鼻渡 信幸	金融	代理 小林 尚人
倉吉信用金庫本店営業部	部長	松村 諭	金融	
三朝郵便局	局長	杉本 博司	郵便 物流	
西日本電信電話株式会社鳥取支店	課長	蛸積 仁丸	産業	
鳥取短期大学 生活学科 情報・経営専攻	准教授	三沢 英貴	教育	

【オブザーバー】

所 属 等	職名等	氏名（敬称略）	分野	備考
県中部総合事務所県民福祉局（三朝町担当コンシェルジュ）	参事	福田 佳子	行政	

案
「三朝町人口ビジョン」

令和 年 月 改訂

1 はじめに

我が国の総人口は、2010 年をピークに長期の減少過程に入りました。国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の将来推計によると、このまま推移すれば 2070 年には総人口が 9,000 万人を割り込むとされています。この人口動態の変化は不可逆的であり、経済規模の縮小や財政の硬直化など、広範な影響を及ぼすことが懸念されます。

このため、三朝町では国や県などと同様に平成 27 年、町の人口の現状と将来の姿を示し、人口減少をめぐる問題に関する認識の共有を目指すとともに、今後、目指すべき将来の方向を提示することを目的として、三朝町人口ビジョンを策定しました。

今回の改訂は、令和 2 年国勢調査をはじめとする各種統計データ及び社人研が行った推計等を踏まえ、これまでの 5 年間の経過を振り返り、改めてこの困難な課題に対して全ての関係者が力を合わせて取り組んでいけるよう取り組むものです。

なお、改訂にあたっては、当時に設定した方針や平成 31 年に策定した第 11 次三朝町総合計画を踏襲しています。

2 三朝町人口ビジョンの位置付け

三朝町人口ビジョンは、本町における人口の現状を分析し、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものとして平成 27 年に策定し、その後令和 2 年に改定し、今回に至ります。

今回の三朝町人口ビジョンにおいてもこれまでと同様、三朝町まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎資料という位置付けを持たせたものとしています。

なお、地方版総合戦略を策定する際には、国の総合戦略を勘案することとされ、地方人口ビジョンを策定する際にも、国の長期ビジョンを勘案することが望まれていることから、本ビジョン改訂においてもそれらを踏まえたものとなっています。

3 三朝町における人口の現状分析

現状の把握を行うため、次の項目ごとに最新の統計調査の状況をここで示します。

- ①総人口と年齢別人口の推移
- ②出生数と死亡数の推移（自然増減）
- ③転入数と転出数の推移（社会増減）
- ④産業別就業者数の推移
- ⑤人口の変化が三朝町の将来に与える影響

①総人口と年齢別人口の推移

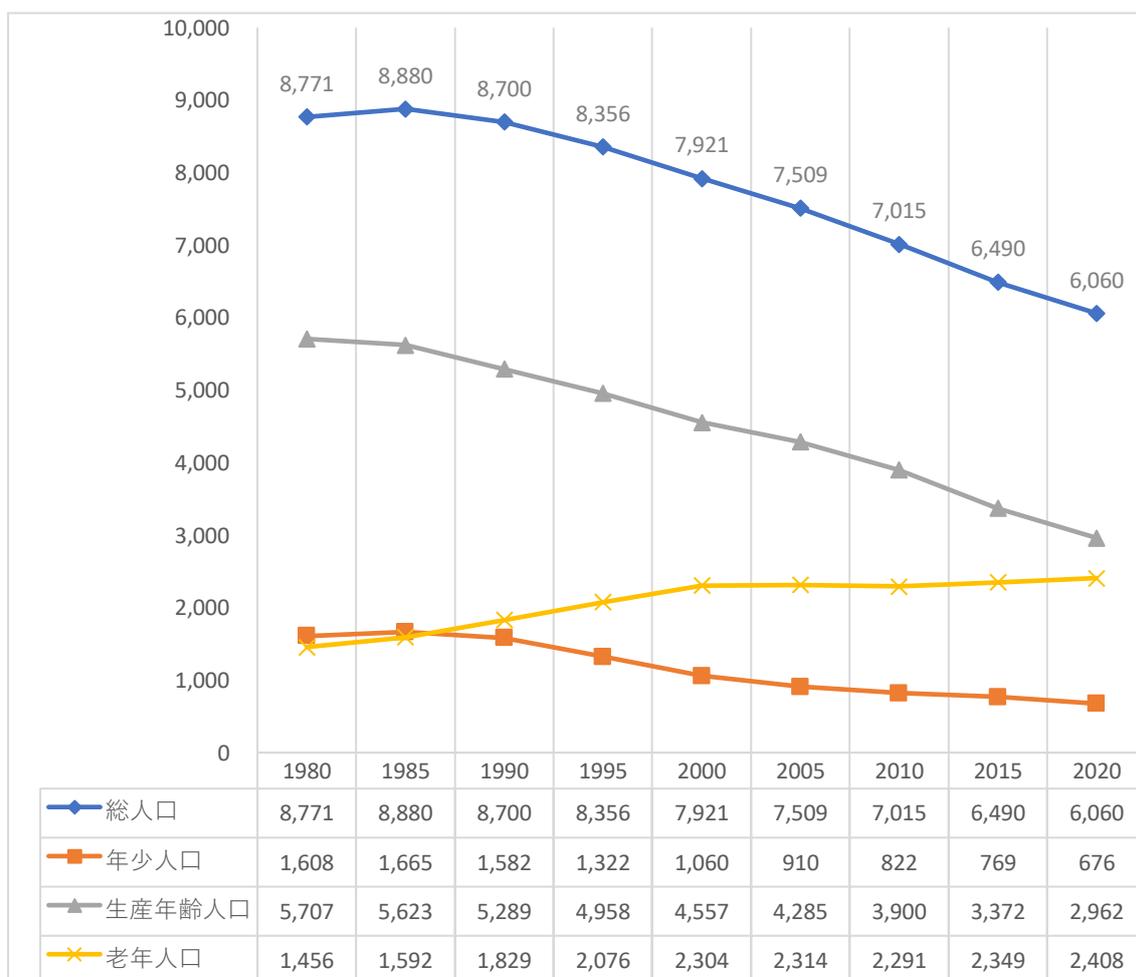
(1) 総人口と年齢3区分別人口の推移

ー令和2年国勢調査の結果を反映

〈分析〉

○総人口は、依然として年平均100人ペースで減少がみられる

○生産年齢人口の減少傾向、老年人口の増加傾向がこのままペースで進行した場合、近いうちに逆転する見込み



出典：国勢調査

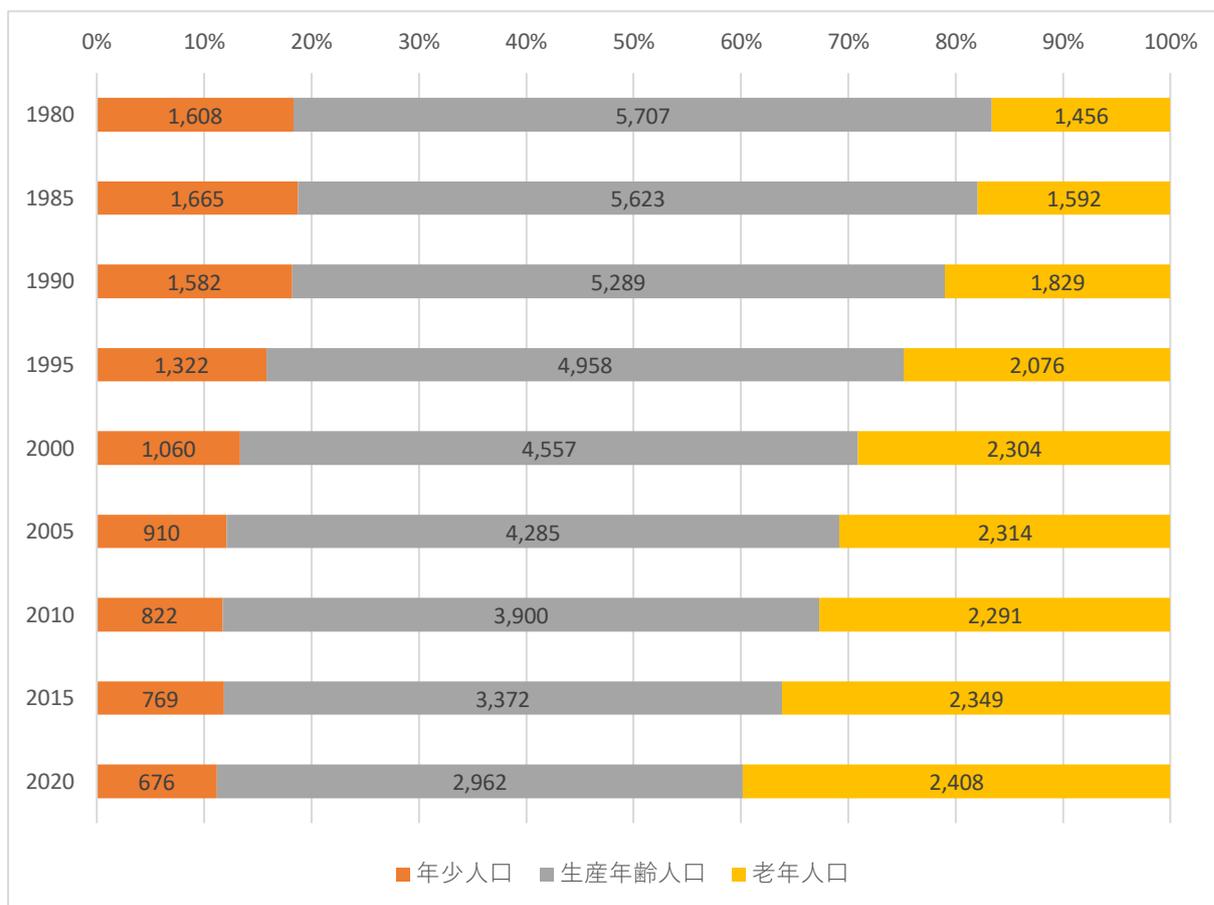
(2) 年齢3区分人口構成比の推移

—令和2年国勢調査の結果を反映

〈分析〉

○生産年齢人口が占める割合が、50%を下回った

○老年人口が占める割合が、40%を上回った

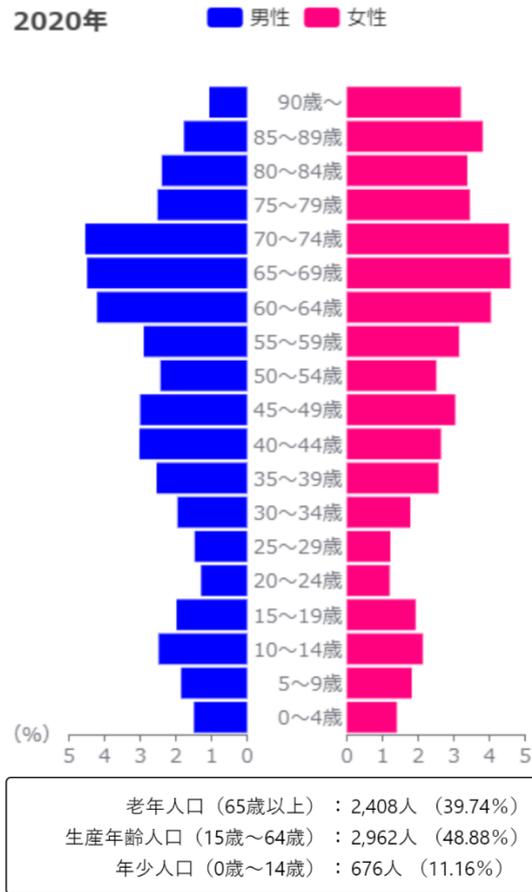


出典：国勢調査

(3) 5歳階級別人口

〈分析〉

- 若年層が細り高齢層が厚い「つぼ型」へ移行
- 少子高齢化と労働力減少が進行中



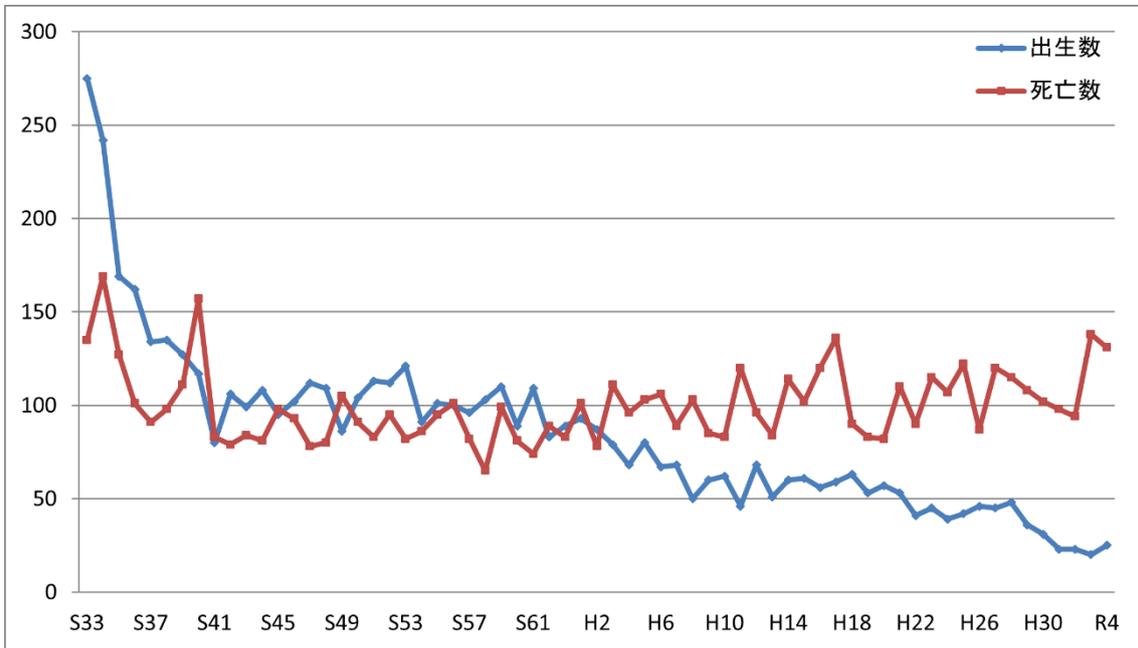
出典：国勢調査（地域経済分析システム）

② 出生数と死亡数の推移（自然増減）

(1) 出生数と死亡数の推移

〈分析〉

- 出生数は一貫して減少し、近年は過去最低水準
- 死亡数は増加傾向で、高齢化の影響が大きい
- 死亡数が出生数を上回る自然減が定着し、人口減少が続いている



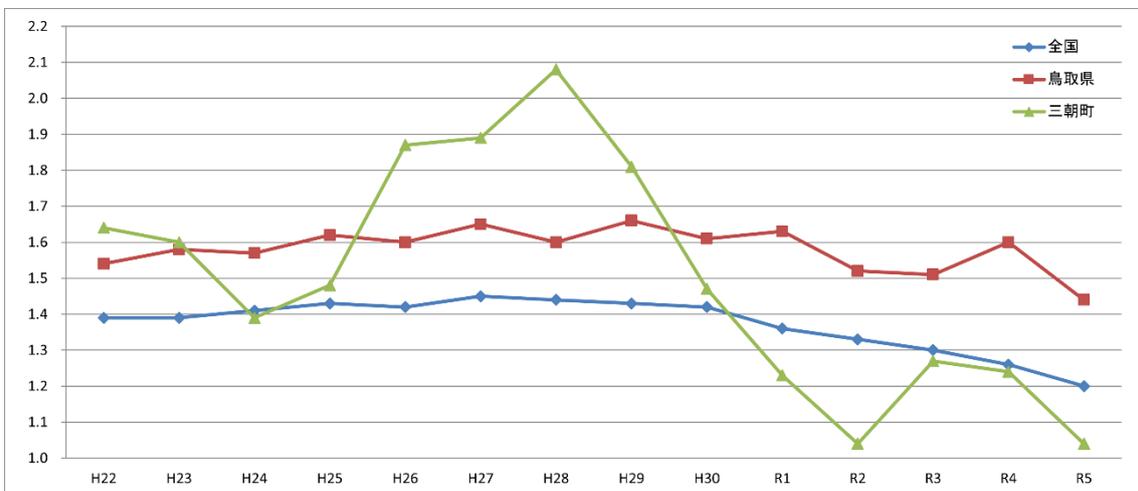
年	s33	s37	s41	s45	s49	s53	s57	s61	h2	h6	h10	h14	h18	h22	h26	h30	r4
増減	140	43	-3	-3	-19	39	14	35	9	-39	-21	-54	-27	-49	-41	-71	-106

出典：住民基本台帳

(2) 合計特殊出生率の推移

〈分析〉

- 年ごとの変動が非常に大きく、近年は全国・県を下回る低水準が目立つ



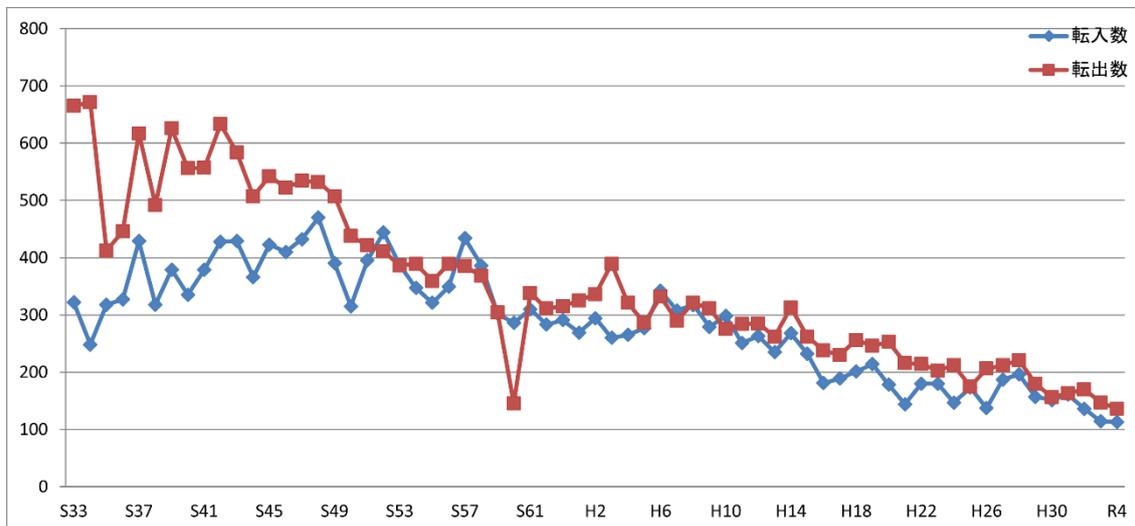
出典：鳥取県HP（福祉保健課）

③ 転入数と転出数の推移（社会増減）

(1) 転入数と転出数の推移

〈分析〉

- 転出数が転入数を上回る年が多く、人口流出超過が続いている
- 転入数・転出数ともに長期的に減少し、人の移動規模自体が縮小



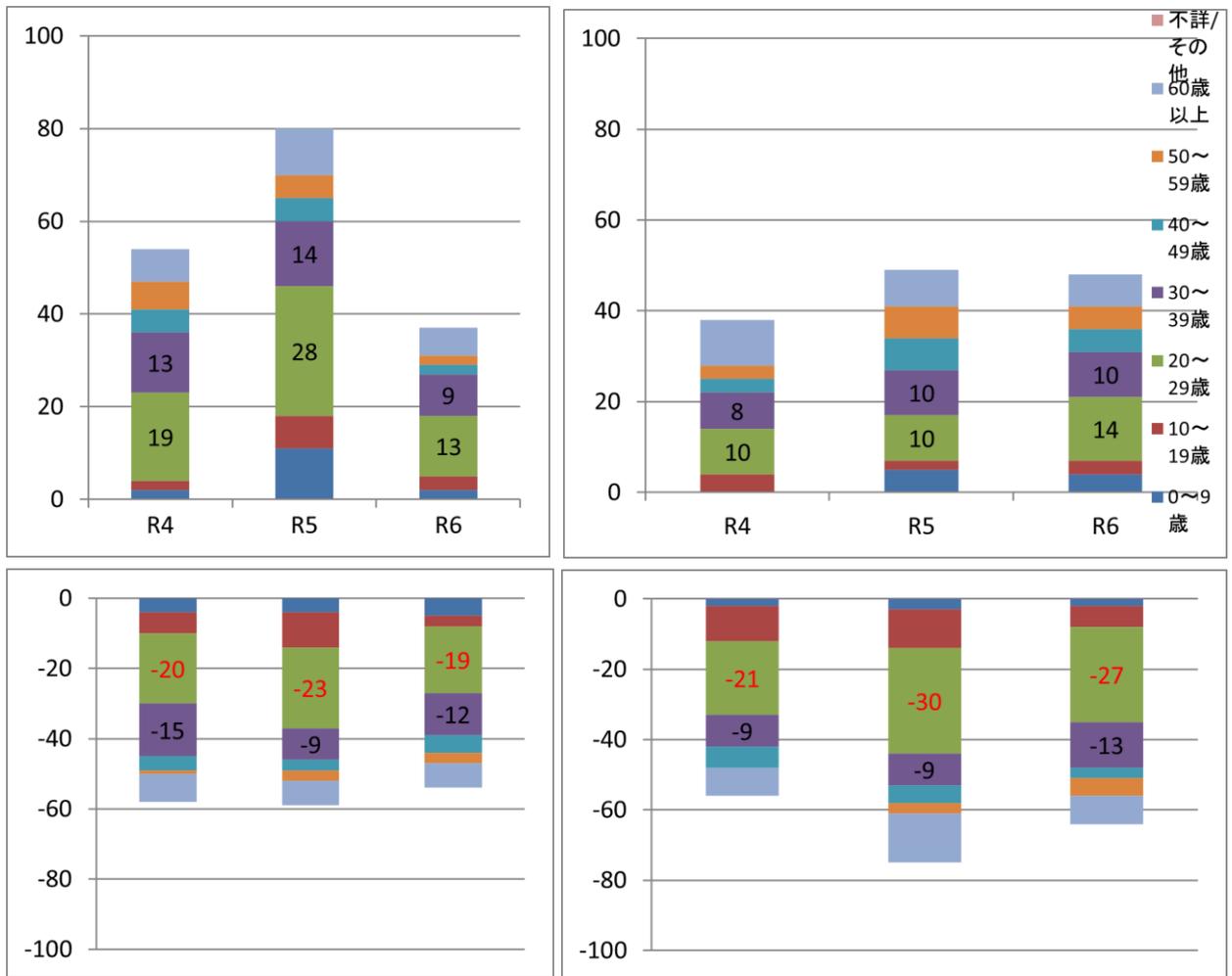
年	s33	s37	s41	s45	s49	s53	s57	s61	h2	h6	h10	h14	h18	h22	h26	h30	r4
増減	-343	-188	-178	-119	-117	1	49	-28	-42	10	23	-45	-55	-34	-69	-5	-28

出典：住民基本台帳年報

(3) 直近3か年における10歳階級別男女転入・転出数の推移
 〈分析〉

○30～39歳も転出超過が見られるが、転入も多い傾向がある

○特に20～29歳の転出が多い



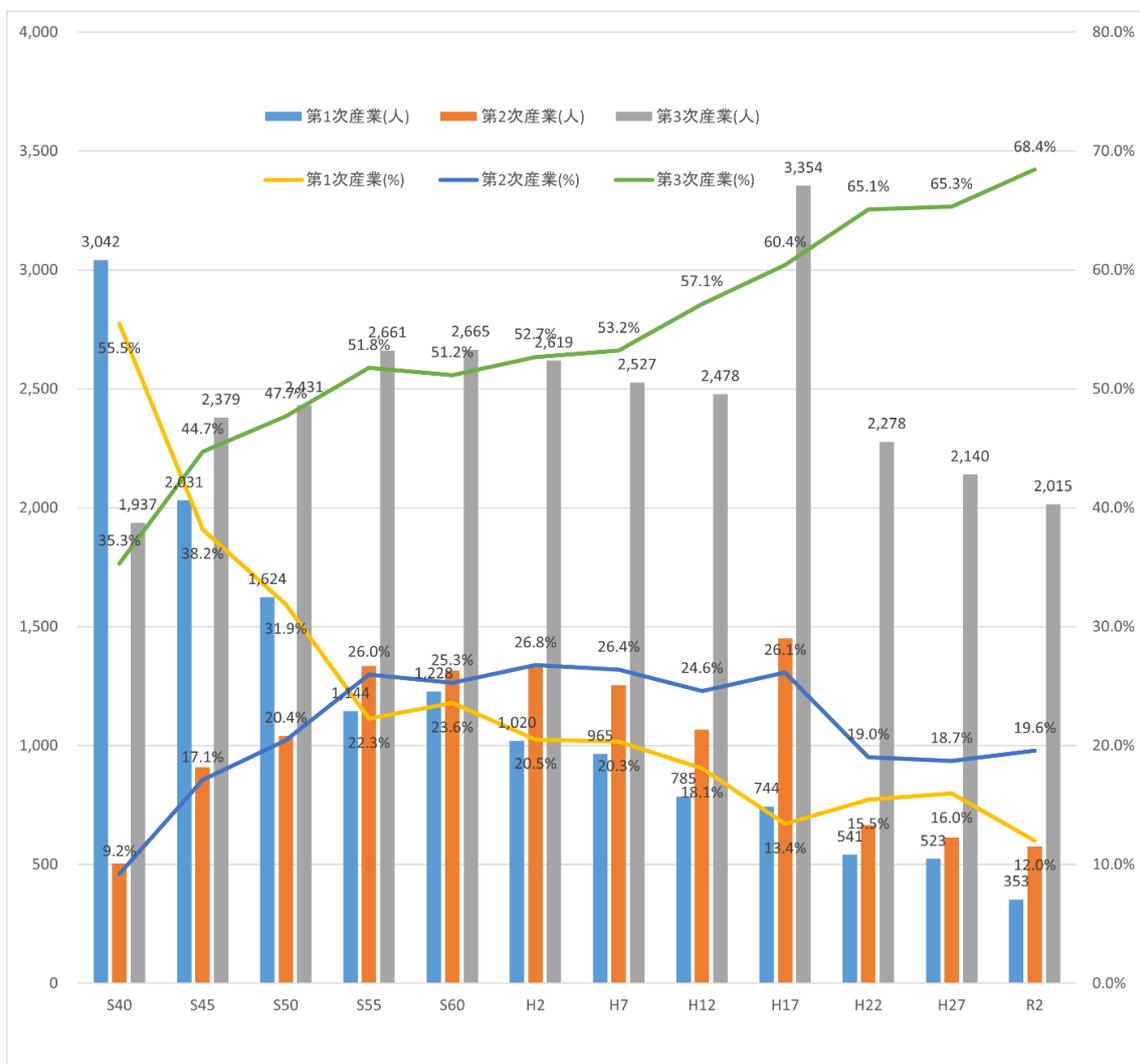
出典：住民基本台帳人口移動報告

④ 産業別就業者数の推移

(1) 産業別就業者数および就業者割合の推移

〈分析〉

- 第1次産業の人数と割合が大幅に減少している
- 第3次産業が圧倒的に増加し、割合も70%近くまで上昇している
- 第2次産業は人数と割合ともに概ね横ばいかやや減少傾向



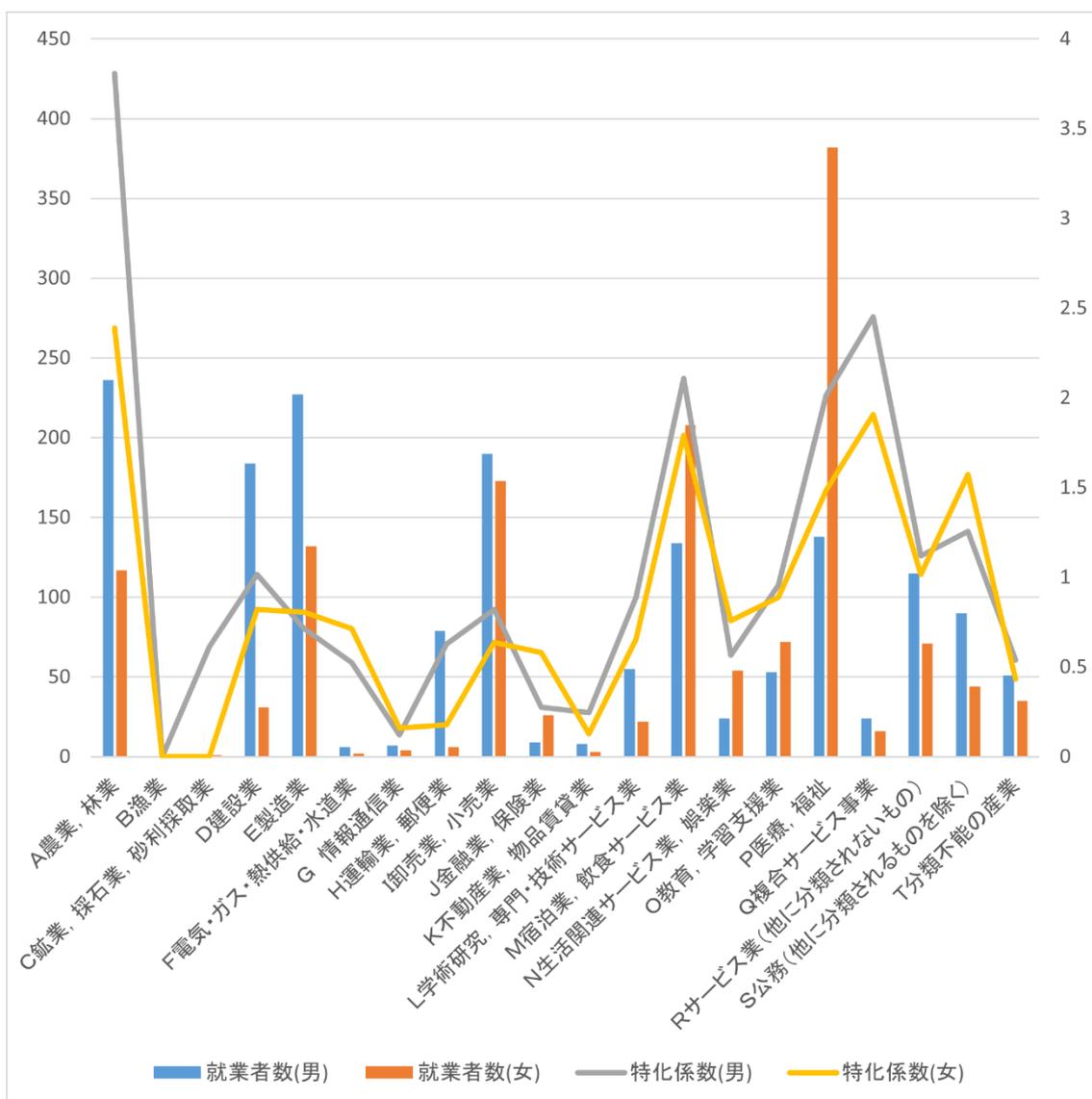
出典：国勢調査

(2) 男女別産業大分類別人口

〈分析〉

○男性は、「農業・林業」「製造業」「建設業」などで特化係数が高く、女性は「医療福祉」「生活関連サービス」「卸売小売業」が高い

○男女別に強み・特徴が異なり、性別による職務分野の分断構造が示唆される



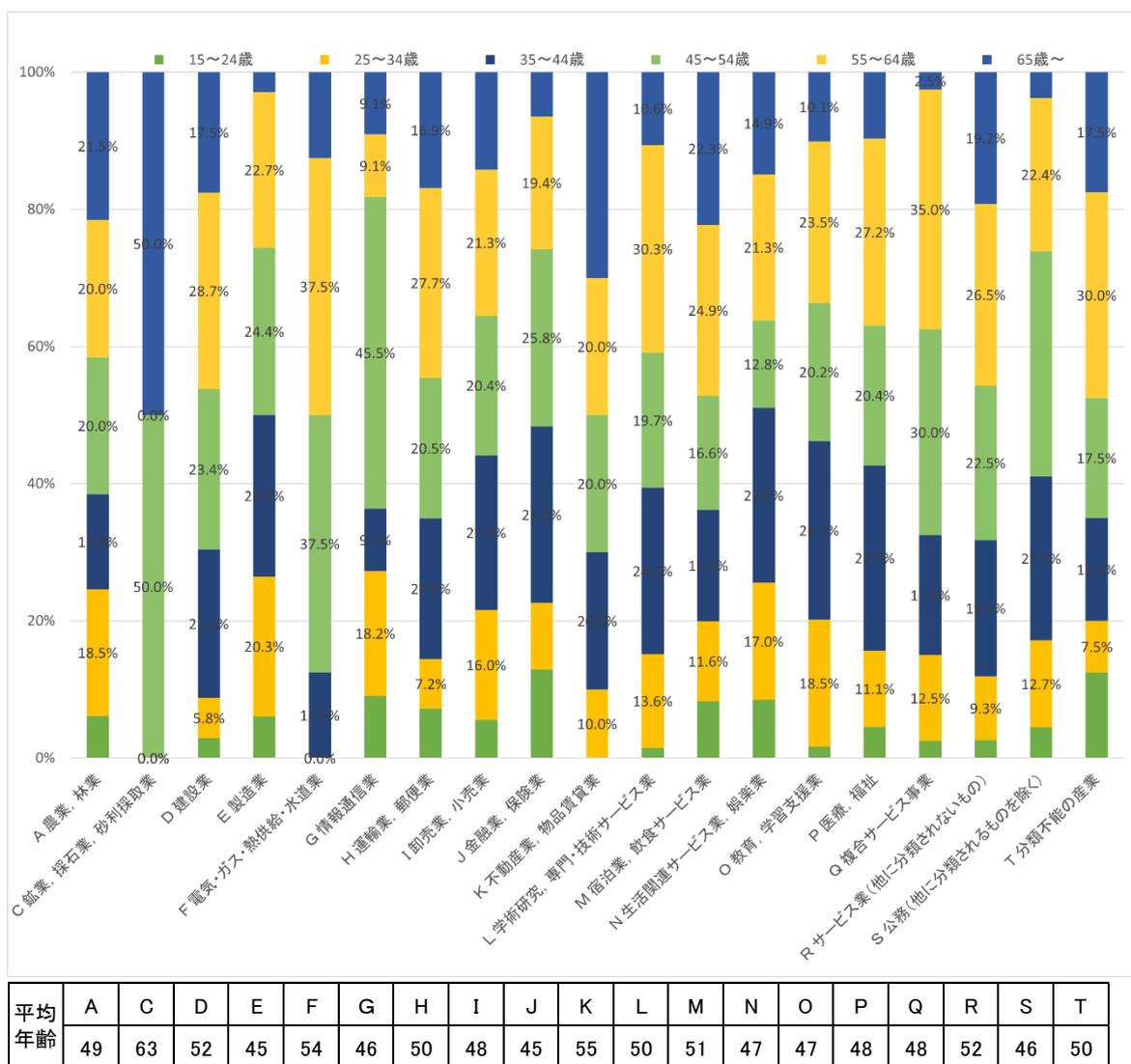
※各産業の特化係数＝三朝町の各産業就業者比率／全国の各産業就業者比率

出典：令和2年国勢調査

(3) 年齢階級別産業人口

(分析)

- 「農林業」「建設業」「製造業」などでは比較的高齢層（55～64歳以上）が多く占める傾向が見られる
- 「医療・福祉」「教育」「生活関連サービス」などでは若年層（25～44歳）や中堅層の割合が高い



※漁業については母数が少ないため不掲載

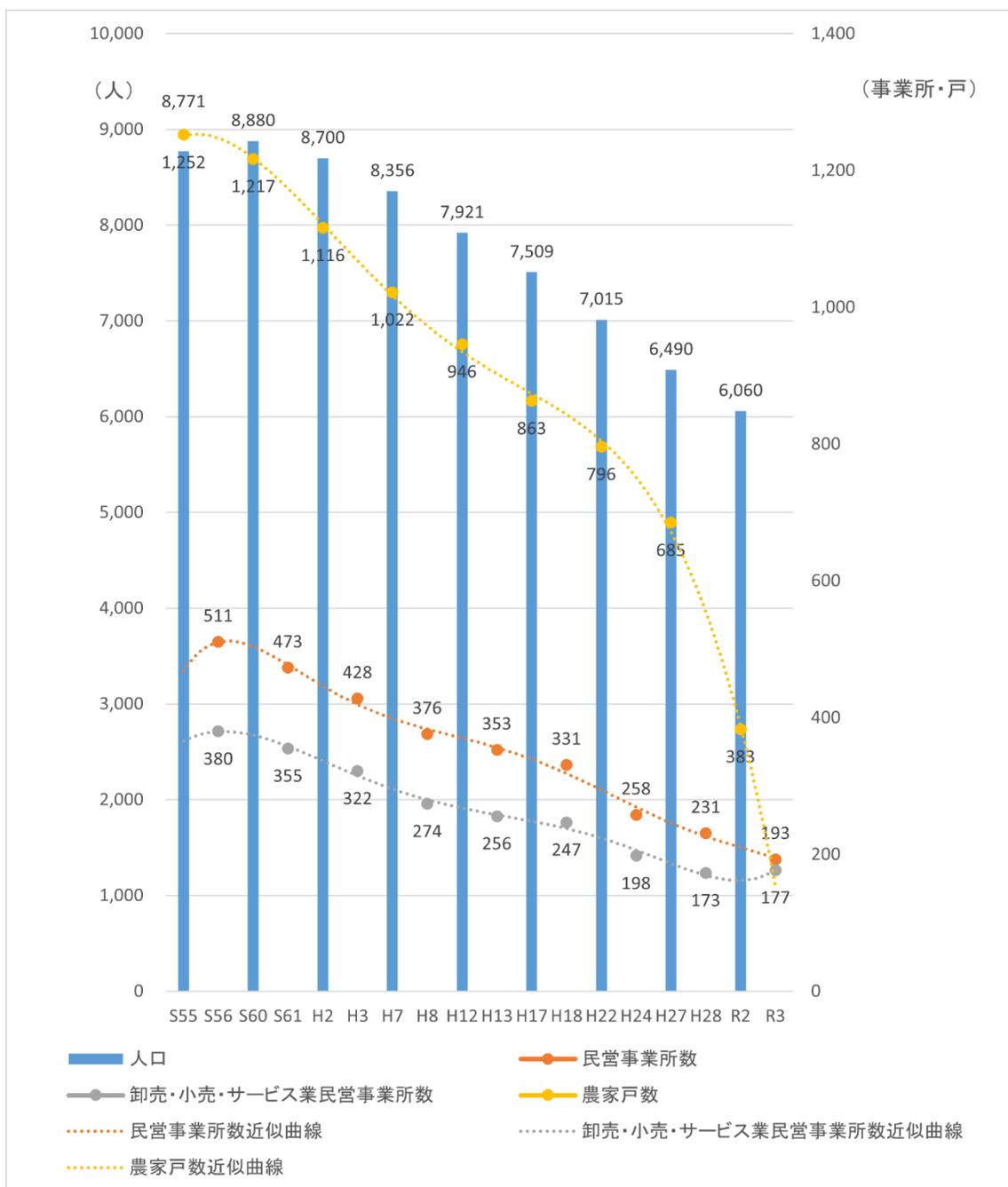
出典：令和2年国勢調査

⑤ 人口の変化が三朝町の将来に与える影響

(1) 民間利便施設および農家戸数と人口の推移

〈分析〉

○民営事業所数、農家戸数、卸売・小売・サービス業の事業所数はいずれも減少傾向であるが、人口減少ほどの急激さはない



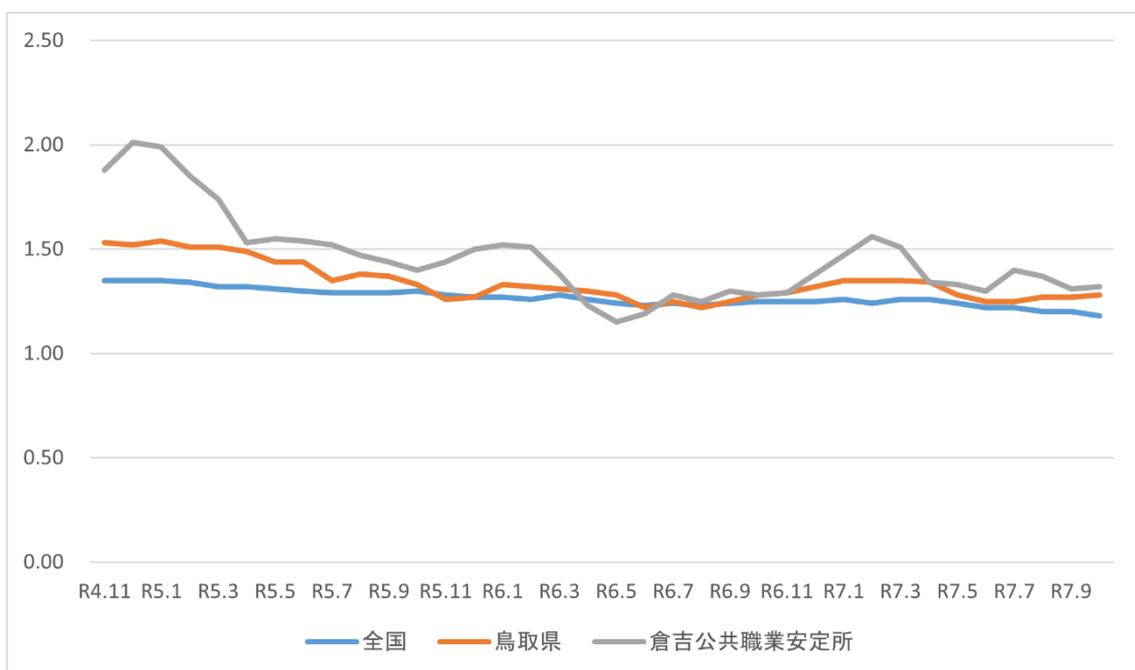
※民営事業所数、卸売・小売・サービス業民営事業所数、農家戸数の推移を示すため、近似曲線を使用

出典：国勢調査、経済センサス、農林業センサス

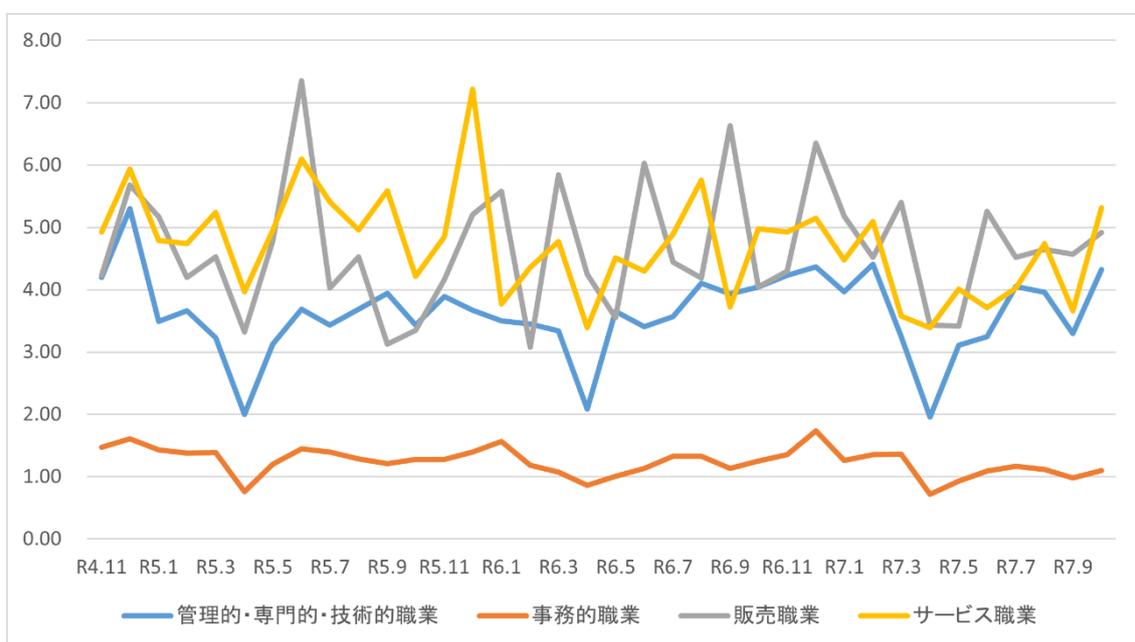
(2) 地域産業における人材（人手）の過不足状況

〈分析〉

- 上下変動がやや大きく、全国・県平均より若干高い時期もある
- 全国と鳥取県はほぼ同じレンジ（1.1～1.5あたり）で推移
- 職種間の需給アンバランスが目立ち、求人への偏りや人手不足を示唆



出典：鳥取労働局労働市場月報



出典：鳥取労働局労働市場月報

4 数字から見える三朝町

- ◇総人口は毎年100人程度の減少を続け、生産年齢人口と年少人口の割合が低下してきている
- ◇出生数の減少傾向と死亡数の増加傾向の差異により、年間約62人程度の自然減となっている
- ◇社会減の大きな要因は、15～19歳から20～24歳にかけての転出超過を取り戻せていないことであると考えられる
- ◇本町の産業構造としては第3次産業が中心であり、なかでも宿泊・飲食・複合サービス業が主体となっている一方、農林業においては高齢化、担い手が課題となっている
- ◇町の人口減少は民営事業所の減少、すなわち経済規模の縮小を引き起こしており、加えて主要産業における人手不足の発生要因ともなっている

5 三朝町人口の将来展望

現状の把握および日本全体の傾向などを踏まえ、三朝町においては、以下のとおり推計を行いました。

〈推計〉

ア パターン1（社人研推計準拠）

- ・国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」準拠
- ・同推計では、出生や死亡に関する仮定は最近の傾向を踏まえて設定
- ・一方の移動の仮定については、最近の傾向が今後も続くものとして設定

イ 社人研推計準拠+合計特殊出生率の上昇パターン

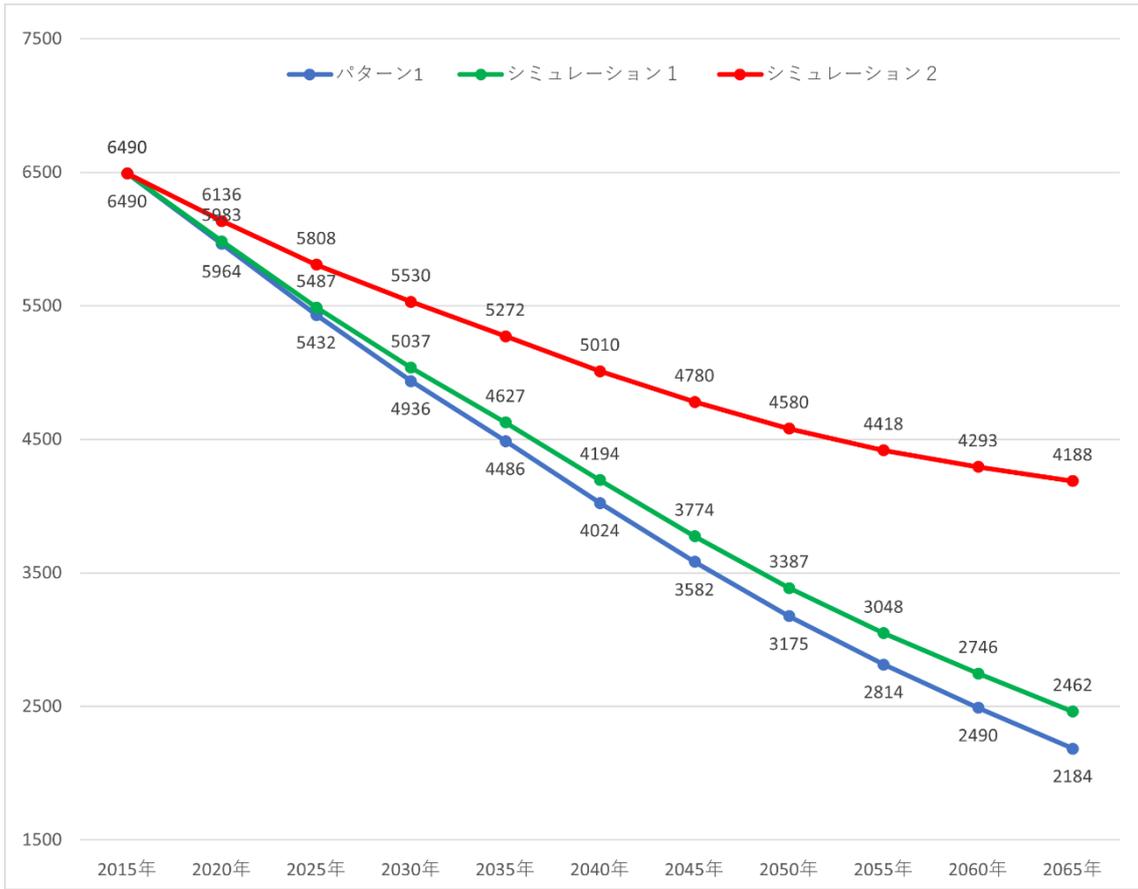
- ・アにおいて、合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保いてる水準の2.1程度）まで上昇したとした場合のシミュレーション

ウ 社人研推計準拠+合計特殊出生率の上昇+移動の均衡

- ・イに加え、かつ人口移動が均衡したとした（移動がゼロとなった）場合のシミュレーション

〈分析〉

- 社人研推計に準拠すれば、2050年には3,000人の人口予測となる
- 第11次総合計画における想定人口は、2030年に5,500人としており、これを達成するためには合計特殊出生率の上昇、移動の均衡が必要な条件となる（社人研+①+②）



案
新たな地方創生の実現に向けた
第 3 期「三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略」

◆みさきスタイルの地方創生 2.0 を推進する

三朝町では、「三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を三朝町総合計画の実現に向けたアクションプランと位置付け、平成27年10月に第1期を策定、その後第2期を令和2年3月に策定し、目指すべき目標である「笑顔と元気があふれ 輝く町」の実現に向けて、取り組みを進めてきました。

しかし、人口減少社会は加速が見られ、さらにはコロナ禍及び長引く物価の高騰等による町内産業が受けた影響は甚大なものであり、これからの産業振興や地域づくりなどにおいて、解決すべき課題を依然として抱えている状況にあります。

このような現状を踏まえ、三朝町が持つ魅力を活かし、三朝町でしか実現することができない地方創生を進めるためには、時代を取り巻く環境の変化を敏感に捉えながら、さまざまな課題の解決に向け、引き続いて積極的な取り組みを行っていくことが重要です。

三朝町の明るい未来を開くため、「新たな地方創生の実現に向けた第3期三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少社会への対応、デジタル技術の活用、さらには若者や女性に選ばれる地域づくりを基本方針として”みさきスタイルの地方創生の実現”を目指します。

◆戦略の方向性

新たな地方創生の実現に向けた第3期三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、「第3期総合戦略」という。)では、三朝町がこれまで進めてきた施策等を引き続き推進するとともに、国や県の動きを的確に捉え、「地方創生2.0」の推進につなげます。また、昨今急速に普及が進んでいる「デジタル技術の活用」、「若者や女性に選ばれる地域づくり」という考え方を取り込みながら、三朝町の明るい未来の実現を目指します。

策定にあたっては、2014年に施行された「まち・ひと・しごと創生法」に基づく地方創生の推進、2022年のデジタル田園都市国家構想によるデジタル技術の活用、さらには2025年に「地方創生2.0の基本構想」で示された”新しい日本・楽しい日本の実現”に向けた方針を踏まえ、町の実情に照らし合わせ、策定することとしています。



「まち」の創生・・・やってみよう

課題感：人口減少、少子高齢化、活力低下、過疎化、空き家対策など

目指すもの：○住民が三朝町に“住み続ける”ことを可能とする仕組み

○元気な「スモールタウン」創造

○温泉を活用した健康まちづくり（人生100年時代、健康寿命延伸のための健康づくり、新たな現代湯治の枠組み）

○町の魅力発信

関連する分野別将来像：

○支え合いでつながる町

○いのちと健康を育む町

○笑顔で暮らせる町

「ひと」の創生・・・つながろう

課題感：世代間ギャップ、マンパワー不足・関心の低下、行動範囲の広域化など

目指すもの：○みささ教育の継続推進

○交流・関係人口拡大への挑戦と仕組み（移住定住対策）

○外部人材、プロフェッショナル人材の活用

○活発な町民活動の創出

関連する分野別将来像：

○感性と自立心を育む町

「しごと」の創生・・・つくりだそう

課題感：人材不足など

目指すもの：○新たな魅力づくり（「温泉と三徳山(日本遺産)」＋X）

○新たなブランドづくり

○新たな特産品づくり

○持続可能な「しごと」の仕組み

○高速情報通信基盤の活用（観光業、農林業、空き家、空き校舎）

関連する分野別将来像：

○豊かな資源を活かす町

【対象期間】

令和7年度を初年度とする令和11年度までの5年間

戦略の推進にあたっては、PDCA サイクルに基づく、KPI 等の施策の検証を毎年行いながら目標達成に向けて効果的に取り組みます。



分野別将来像と基本事業

第3期総合戦略は、第11次三朝町総合計画のアクションプランとして位置付け、密接な関係を持たせることとしています。

そのため、町の将来像は同じにし、第11次三朝町総合計画において分野別将来像に紐づいている基本方針を第3期総合戦略では基本事業と読み替え、同事業の推進を図っていきます。

※読み替える際、第11次総合計画の基本方針の一部については複数のものを1つにまとめているものがあります

分野別将来像1 感性と自立心を育む町

- 基本事業1-1 みささ教育のすすめ
- 基本事業1-2 ふるさとを愛する人づくり
- 基本事業1-3 自立と社会参加のすすめ

分野別将来像2 支えあいでつながる町

- 基本事業2-1 みんなで創る、みささのつながり（安全・安心な生活）
- 基本事業2-2 未来につなげる公共交通

分野別将来像3 いのちと健康を育む町

- 基本事業3-1 いのちを育て・守り・支える
- 基本事業3-2 健康長寿のすすめ
- 基本事業3-3 共生社会を目指して

分野別将来像4 豊かな資源を活かす町

- 基本事業4-1 観光業・商工業・農林業の活性化
- 基本事業4-2 地域資源の活用に向けて

分野別将来像5 笑顔で元気に暮らせる

- 基本事業5-1 みささらしい暮らしを創る
- 基本事業5-2 つながりを大切にする地域づくり

分野別将来像 1 感性と自立心を育む町

学校、家庭、地域で手を携え、共に頑張る人づくりを進めます。

「まち」の創生、「ひと」の創生、「しごと」を創生するために、最も重要になるのは「ひと」の創生です。三朝町では、三朝スタイルの地方創生を進めていき、第11次三朝町総合計画で描く未来を実現させるために人材育成に関する取り組みを加速させていただきます。

【推進・重点事業】

- ◇保小連携による確かな子どもの育ち
- ◇GIGA スクール第2期の推進“NEXT GIGA”
- ◇常にアップデートされた教育設備による最適な学習環境の維持・発展
- ◇新たな教育環境を活かした園小中及び地域の接続・連携・協働の充実
- ◇高等教育機関との連携強化
- ◇図書館DXの推進

基本事業1-1 みささ教育のすすめ

◎豊かな自然環境や人の輪をはじめとする“みささの良さ”を活かし、確かな学力を身に付け、運動能力を向上させ、人を大切にする温かい心を醸成します。

【具体的施策】

- 誰一人取り残さないきめ細やかな教育対応の充実を図る
- 教育施設の拠点集中を生かした園小中における教育連携を深め、確かな学力の確保につなげる
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る
- 最適な教育ネットワーク環境を持続し、教育現場におけるデジタル技術を活用した学びを推進する
- 高等教育機関との積極的な関わりを継続し、専門的な知識やスキル、高度な研究等に触れる機会を創出する
- 本町の産業、歴史、文化、自然環境への理解を深め、ふるさと三朝町に誇りと愛着を持つ心を育成する
- 観光・交流の町としての資質を教育に活かす取り組みを推進し、外国語教育の充実をはじめ、国内外との交流を通じて、社会で活躍する人材を育成する
- 充実した教育活動を実践するため、学校施設づくりと放課後における子どもたちの快適な居場所づくりの実施

【重要業績評価指標（KPI）】

項目	現時点数値	目標年次数値
小6⇒中1進学時の不登校率	—	現時点数値を測定後設定
園小・小中の連携会議	—	5回
小中学校標準学力調査の5教科正答率	—	全国平均以上
ネットワーク推奨帯域を満たす学校の割合	—	100%
高等教育機関からの講師招へい	—	複数回

基本事業 1-2 ふるさとを愛する人づくり

◎温かな笑顔でつながる“みささ”の中で、地域の若者がふるさとの良さを再認識し、「ふるさと三朝」の未来を共に考え、行動していきます

【具体的施策】

- 青少年の健全育成に向けて、新たな体制づくりを検討するとともに、地域における活動の場として、体験交流活動やボランティア活動に参画できる仕組みを創設
- 家庭、地域、行政が一体となり、老若男女が楽しみながら参加できる学びの機会を創設
- 家庭が本来の役割を果たし、親と子がともに成長していけるよう、家庭や地域における学習機会の充実化
- 広報や啓発活動などを通じ、青少年の健全育成に関する情報提供を行うことによって、町ぐるみで青少年を支援していく取り組みを推進
- 住民の地域活動への参加と世代間交流・異年齢交流を進め、地域に対する理解を深め、町に誇りと愛着を持った人材の育成を実施
- 鳥取県立美術館をはじめとする町内外の文化施設などと連携した取り組みの推進
- 電子図書やオーディオブック等、多様な利用者を想定した図書館の在り方を検討しデジタル技術を活用した貸出冊数の増加につながる取組を進める

【重要業績評価指標（KPI）】

項目	現時点数値	目標年次数値
ボランティア活動参加者	40 人	50 人
総合芸術祭の開催	—	1 回
図書館貸出冊数	77,487 冊	91,000 冊

基本事業 1-3 自立と社会参加のすすめ

◎町民が自主的に学び続けることのできる環境を創り、防災、福祉、地域づくりへの活動に協働で取り組んでいける環境を創ります

【具体的施策】

- 社会情勢の変化や地域の特性、町民ニーズを的確に捉えながら、町の特色を活かした新しい学びの場を創出
- 学校、家庭、地域、民間団体、町内事業者と連携し、一緒になって教育する体制を構築
- 学校教育と連携しながら、地域の歴史などをよく知る高齢者から学びを受けられる機会を創出

分野別将来像 2 支えあいにつながる町

生活の安全、地域の安全、町民の安心をみんなで創り上げます

町民一人ひとりが互いに互いを支えあえる関係を築き上げ、防災・減災対策、地域での見守り活動、持続可能な公共交通サービスの構築などを実現させていき、すべての人が安全で安心して暮らせる「まち」を創生します。

【推進・重点事業】

- ◇消防、防災体制の充実
- ◇安全・安心の地域づくり
- ◇公共交通の確保
- ◇安定した水供給と適正な排水処理
- ◇安全で円滑な地域道路網の確保

基本事業 2-1 みんなで創る、みさきのつながり（安全・安心な生活）

◎防災体制の充実を推進するにあたり、近年は大規模化、頻発化の傾向にある自然災害に対応できるよう、家庭や地域で自主防災体制(自助・共助)を整備します。

【具体的施策】

- 消防団員の適正な確保に向け、人口減少や少子高齢化等の影響を勘案しながら計画的に組織再編を行う
- 消防団におけるデジタル技術の活用を進め、青年層や女性、町内事業所勤務者等の新たな協力者の発掘とあわせ、持続可能な組織体制を構築する
- 防災に関する知識を身に着け、災害発生時に命を守るため行動がとれるよう防災学習の機会を確保する
- 空き家の総数把握のため5年に一度の調査結果をデータベース化し、関係機関との情報共有を図る
- 放置空き家の増加を防ぐため、空き家になる前からの周知・徹底を図る
- 空き家の売買・賃貸など流通を促し、移住の受け皿や起業等の利活用につながる取組を支援する

【重要業績評価指標（KPI）】

項目	現時点数値	目標年次数値
消防団員数	264人	270人
管理不全家屋数	106戸	90戸
空き家利活用件数	7件	15件
空き家バンク登録件数	14件	30件

基本事業 2-2 未来につなげる公共交通

◎将来を見据えた持続可能な公共交通サービスの構築に向けていきます

【具体的施策】

- キャッシュレス決済を導入し、幅広い利用者に対応する公共交通を目指す
- 利用者数、代替交通手段等の状況を総合的に判断し、関係機関との協議のうえ適切な運行ダイヤを確保する

【重要業績評価指標（KPI）】

項目	現時点数値	目標年次数値
交通系 IC 決済利用率	—	85%

分野別将来像3 いのちと健康を育む

子どもから高齢者まで、健康で元気に暮らすことのできる、誰にでも優しい町を目指します

人生100年時代と言われる昨今、いつまでも元気に暮らすことができ、活躍できる体制を整備し、未来を担う子どもたちのために、すべての「ひと」が希望をもって出産、育児を実現できる「まち」をつくりたい。

【推進・重点事業】

- ◇子育て環境の充実
- ◇地域福祉の推進
- ◇地域医療体制の充実
- ◇高齢者福祉の充実
- ◇健康づくりの推進
- ◇障がい児・者福祉の充実
- ◇温泉を活用した健康まちづくり

基本事業3-1 いのちを育て・守り・支える

- ◎子育て環境の充実と、地域で育った子どもたちが次代の町を支えることにつながる取り組みを進めます
- ◎町民それぞれの疾病や介護などの状況に応じ、安心して適切な医療・介護サービスを受けられる体制の確立を目指します

【具体的施策】

- 子どもを育てる保護者の不安や悩みに寄り添い、親子関係の安定と子どもの健やかな成長をサポートする。
- 親子間の愛着形成を大切にしたい子育ての基盤づくりを応援、豊かな遊びと体験を通して生きる力を育てる保育・教育
- ライフステージ全体を通して、こどもを取り巻く様々な問題の解決に導く体制づくり
- 人や地域のつながりにより、誰一人孤立させず、あたたかく見守る
- 妊娠期から男女問わず気軽に身近に相談できる体制づくりと産後ケアを推進し、親子が共に健康的に暮らせる基礎づくり

【重要業績評価指標（KPI）】

項目	現時点数値	目標年次数値
園の満足度アンケート	—	100%
子育てポータルサイトアクセス数	2,505件/月平均	4,000件/月平均
合計特殊出生率	1.04%	1.64%
健診受診率(1歳半・3歳)	100%	100%
健診受診率(国民保険加入者)	42.4%	60%
平均余命ー平均自立期間	男性 1.7歳 女性 3.1歳	男性 1.6歳 女性 3.4歳

基本事業3-2 健康長寿のすすめ・共生社会を目指して

- ◎高齢者、障がい者の分け隔てなく、誰もが元気に自分らしく地域での生活ができる「まち」を目指します
- ◎町の資源を最大限に活用した健康づくりを推進

【具体的施策】

- 健康寿命の延伸対策を重要視し、関係機関と連携しながら健康づくりを推進
- 集いの場「サロン」の充実やラドン体操の継続、普及を図り、介護予防を推進
- 三朝温泉病院、岡山大学などと連携し、新たな健康プログラムを推進
- 健康アプリの利用を促し、デジタルヘルスの普及を図り、健康増進と介護予防を図る
- 関係機関と連携し、健康に資する学習会等を積極的に開催し、町民の健康に関する意識醸成を図る

【重要業績評価指標（KPI）】

項目	現時点数値	目標年次数値
健康づくり講演会の開催	—	1回
介護保険認定率	19.9%	20%
介護ボランティア活動者数	14名	20名
三朝温泉活用健康プロジェクト参加者数(健康アプリ利用者数)	300名	600名
健康アプリ満足度	—	85%
健康になった感じる人の割合(健康アプリ利用者)	—	85%

分野別将来像 4 豊かな資源を活かす

みささの持つ特色ある地域資源を有効に活用し、輝き続ける町を目指します

町の主要産業である「観光業」、「商工業」、「農林業」の継続的な発展のため、時代のニーズを的確にとらえながら、「みささブランド」の確立に向けていきます。そして、既にある仕事とICT技術の連携を積極的に行い、魅力ある「しごと」創生を進めます。

【推進・重点事業】

- ◇観光の町の推進
- ◇商工業のにぎわいづくり
- ◇持続可能な農林業の推進
- ◇文化財の保存と活用
- ◇産業の振興

基本事業 4-1 観光業・商工業・農林業の活性化

- ◎日本遺産を核とした観光資源、豊かな自然環境、魅力的な農産物、価値ある文化財を互いに連携させながらみささならではの魅力づくりを進める
- ◎日本遺産ブランドを最大限に活用した観光情報発信、新たな魅力の発掘を図る
- ◎新たな担い手確保対策を展開し、持続可能な農林業の実現を図る
- ◎森林資源を後世に残していくため、適切な活用と整備を進める

【具体的施策】

- 既存の連携体制にとどめず、より広域的な連携を進めることで新たな観光振興を実施
- 「日本遺産を通じた地域活性化計画」に基づき、受入環境整備や高付加価値化への取組を推進する
- 新規創業・起業を促進するため関係機関と連携した支援体制を構築し、ニーズに対応した柔軟な支援を行う
- スマート農業へ向けた取り組みを推進するため、実証実験を行う団体等を支援
- 三朝米や神倉大豆をはじめとする今ある特産品の磨き上げと販路拡大、担い手の育成を継続させながら、果樹や畜産なども含めて新たな発展へとつなげる
- 事業所の後継者不足対策として外部人材の活用等新たな活力の導入についての検討
- 森林資源有効活用に向け、関連機関と連携し、新たな森林経営管理制度・森林環境譲与税を活用した取り組みを実施

【重要業績評価指標（KPI）】

項目	現時点数値	目標年次数値
農業産出額	73 千万円	74 千万円
農林業経営体数	383 経営体	350 経営体
森林整備面積	100ha	確認中
事業承継支援数	2 件	8 件
宿泊施設における売上高	5,276,345 千円	5,335,000 千円
三朝温泉への観光客数	498,406 人	574,000 人
三朝温泉への外国人宿泊者数	14,450 人	24,000 人
創業・起業件数	1 件	13 件

基本事業 4-2 地域資源の活用に向けて

- ◎三徳山投入堂、ジンショなどの文化財をはじめ地域に伝わる伝統文化・文化財を掘り起こし、新たな付加価値を創造していき、町の魅力を拡充
- ◎入浴等施設整備を進め、町民をはじめ観光客に三朝温泉の入浴と健康づくりを連携した取組を提供する
- ◎遊休施設の運用に関する検討を進め、資源の活用につなげる
- ◎町内全域に整備された高速大容量通信が可能な光ファイバーの積極的な活用を促す

【具体的施策】

- 遊休施設(旧校舎等)の利活用について、公募型の提案を受けるなど幅広い活用方法検討する
- 三朝町交流拠点施設の活用計画を策定
- 関係機関と連携し、「山護運動」や「ジンショ」などの伝統文化の保護活動の継続に向け、新たな人材発掘を行う

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	現時点数値	目標年次数値
三徳山入込客数	124,067 人	167,200 人
日本遺産三徳山三朝温泉を守る会 LINE 登録者数	515 人	700 人
ふるさと応援寄付金額	133,103 千円	300,000 千円
ケーブルテレビ加入者数	2,102 件	2,200 件

分野別将来像 5 笑顔で元気に暮らせる町

“みささスタイル”で充実した暮らしを創ります

人口減少、少子高齢化、過疎化の課題があるなかでも、課題解決に向かい、町民が力を合わせて楽しく持続可能な三朝の暮らしを創造することが必要です。

幅広い世代で取り組む地域づくり、コミュニティの再生など、人と人のつながりを活かし、“みささスタイル”での「まち」創生を進めます。

【推進・重点事業】

- ◇多様な暮らし方への応援
- ◇共につながり活力あるコミュニティ
- ◇国内、国際交流の推進
- ◇デジタル技術の活用推進
- ◇広域的な連携と計画的な行政運営

基本事業 5-1 “みささらしい暮らし”を創る

- ◎人との出会い、交流を通じて豊かな三朝町での暮らしを実現します。そして、豊かな暮らしを町外へ向けて積極的に発信することにより、町を「知ってもらい」、「来てもらい」、「関わりを持ってもらい」、「住んでもらい」へと関係性を段階的に上げていきます

【具体的施策】

- 関係人口拡大を図るため、まずは町を知ってもらえるよう、町の情報発信を積極的に実施
- 移住定住の促進、空き家利活用の意識醸成等をミッションとした専門人材を配置し、積極的に取組を推進
- 国内外の交流都市との活動を継続実施し、文化交流を推進する
- デジタル社会の到来を踏まえ、住民の利便性向上及び地域社会の活性化につなげるため DX 推進計画を策定
- ICTリテラシーを深め、安心安全で快適なデジタル技術の活用を促す

【重要業績評価指標（KPI）】

項目	現時点数値	目標年次数値
SNS フォロワー数	2,340 件	4,000 件
空き家バンク登録件数	14 件	30 件
スマホ教室開催数	—	15 回

基本事業 5-2 つながりをお大切にする地域づくり

- ◎集落や地域における人のつながりを再生し、三朝の温かい暮らしを守っていきます

【具体的施策】

- 地域協議会が行う活動を支援し、地域内外での多世代交流を促進する
- 地域づくり、担い手育成・確保、仕事マッチング、移住定住相談などをワンストップで受け付け、対応できるような拠点を整備
- 町民が主体となって取り組み地域活性化に資する活動に交付金を支給

【重要業績評価指標（KPI）】

項目	現時点数値	目標年次数値
まちづくり交付金活用件数	5 件	10 件
多世代交流型イベント開催件数	—	6 件